

聴いて、観て、読む！

ミスチル
ばがぼんど



とりあえず、「旅立ちの唄」を聴く♪(*∇*)



CDを買うとか、レンタルするとか、テレビで見るとか、とにかく一度聴いてみましょう(´.´)テレビで見ると桜井くんがみんなの背中を押してくれます。元気出ます。

でも、この歌は別れの唄。それはもちろん始まりの歌でもあります。亡くなった人を送っているようにも聴こえるし、亡くなった人が残された人に向けて歌っているようにも聴こえます。

さあどこへ行く？ まだどこかで出会えるね

とりあえず『さようなら』

わたしが死んだらこの歌で送ってもらうことにするか。

聴いたら、映画 **恋空** を観る ♪(≥∇≤*) ♪ ♪(*≥∇≤) ♪

恋空
koizora

ヤフーのレビューなんかを読むと、クソミソの言われ方だった(汗) その分ほんとのところはどうか、ひさびさに胸躍って映画館へ！前半30分の出会いのシーンは面白かった。映像はきれいだし、ガッキーはかわいい(特に夏の制服姿が!(^^)!)。友人たちと写真を撮ってもらうシーンでは「この先ずーっと」と言いながら、シャッターが下りると同時に「大好き！」ってみんなで声を合わせる。あーら、かわいくて楽しげでうらやましい！今の子たちってこうやって自分を楽しく演出するのが上手い。





まあそれからは、レイプ、妊娠、流産、別れ、新しい恋人、病気と続いてくわけで（図書室のHはこっちのが恥ずかしくなった（汗））勝手にしてくれの世界へ突入。パーボーな中高生しか感動しないって説も、まあ確かに仕方ないかってところもある・・・でもまあ、ばかばかしくて内容乏しすぎなんだけど、観終わったときの印象は案外さわやかだったりもするんでね？（というような言葉遣いになってしまう）

「前半30分とラストのラストだけもう一度観たい・・・」などと帰りに口走ってしまった。エンディングに流れる「旅立ちの唄」は不思議とこの映画と違和感がない。不本意ながらなぜか映画と似合うんだなあ、ってことはミスチルの歌ってこの程度なのか?? つっこみどころ満載映画（言い始めたらキリがない!）なんだけど、素直な映画なのかも知れない（無理やりほめてる?）



そうそう、ミスチルファンへのサービスはけっこうあります。ラストの二羽の鳩が飛び立つシーンで「Tomorrow Never Knows」を思い出さないミスチルファンはいないはず。ここからのエンディングへの流れはなかなかよろしいんじゃないでしょうか?（ファンだけか?）

観たら、ケータイ小説 **恋空** を読む♪(o°▽°)人°▽°=o)♪

映画「恋空」はかずくと川崎チネチッタのレイトショーに行ったんです（かずくん、付き合ってくれてありがと）。夜遅いこともあってか、館内はギャルとギャル男ばっかだった！これは、ミスチルファンじゃなくてケータイ小説のファン層だったんじゃないかなろうか？



ケータイ小説というものを初めて読んだけれど、こりゃ小説と呼べる代物ではないってことです。小説じゃないんだから、やっぱケータイで読むべき読み物なんです。売れそうだから書籍化する出版業界ってのに疑問を感じるし、本が売れたから映画化しようという映画業界にも疑問を感じます（と言いつつ、映画も観たし、本も買ってしまった（汗））



上下2冊、各 1,000 円。装丁なんかがかわいい割に価格設定を抑えてるのが売れた理由のひとつらしい。こんな本二冊も買っちゃってどうしよー！と思いつつ、予想外、これが案外読めるんです！

不本意ながら、ミスチルの歌を思い出すところも多々あるのです、ってことはミスチルってこの程度なの？

去年、「幸福な食卓」という瀬尾まい子さん原作、Mr.Children「くるみ」が主題歌の映画を見たんですが、この映画って主題歌の扱いは合格点でしたけど「いい映画だろ？」って押しつけがある感じであまり好きでないのです。

つまり、このばかばかしいろくでもない（という評判の）映画や本とミスチルの歌はどこか似たものを持っていて、わたしはこのばかばかしいろくでもない（と言われても仕方ないと思える）映画や本が案外好きらしいという結論に達したのです。

お恥ずかしい・・・(//▽//) テレテレ

ここまできたら、ついでに漫画 **恋空** *:° ☆ \ (*'▽'*) / ☆° ∴ * も読んでみる (*'▽'*) / koizora



世の中には素晴らしい漫画がたくさんあります。映画にも小説にも劣らない表現ジャンルのひとつとっておりますが、まあこの漫画はこの程度でOKでしょう ((+_+)) 普通にかわいい絵柄の少女漫画しています。ただ映画や小説より低年齢層も簡単に手にすることができるのが漫画。小学校の低学年なんかまでが、レイプ、妊娠、流産・・・なんて話を読むのは、おばさんとしてはちょっとどうかな、なんて思うんですけどね。二度とない子供時代は異性と遊ぶより妖精と遊んでほしいですけどね～はは。



ただ映画や小説より低年齢層も簡単に手にすることができるのが漫画。小学校の低学年なんかまでが、レイプ、妊娠、流産・・・なんて話を読むのは、おばさんとしてはちょっとどうかな、なんて思うんですけどね。二度とない子供時代は異性と遊ぶより妖精と遊んでほしいですけどね～はは。

映画「恋空」は公開後、興行収益3位→1位→1位→2位という推移で大ヒット。ケータイ小説「恋空」は2007年度全書籍売上で10位、小説部門では1位という売上を残し、そんな中、Mr.Childrenの「旅立ちの唄」は最終的に前作（しるし）より売上を落とすことになるでしょう。ピンボウくじをひいたのはミスチルだったんじゃないかという推測も成り立つけれど、なにげに似合うテイストを持っていることだし、わたしとしてはこのタイアップも（少々不本意だけど）アリだったかと思います。

タイアップに引きずられない実力がミスチルには備わっているはずです。

これからきっと成長していく歌になるだろう「旅立ちの唄」、

大好きです★!..LOVE~(^▽^(^▽^*)~LOVE...:☆